

NowDo 総合大賞作品

「違いを知れば世界が変わる！異文化理解はじめての一步」

柏キャンパス 2年 神田 葵

気づき：この講座を通した1番大きな気づきは、異文化理解とは海外に生まれた人の文化について理解することだけではないということです。私は、異文化という言葉は海外の方の文化を示しているものだとずっと思っていました。異文化という言葉の意味を深く考えずに、周りの人やメディアから得る情報から異文化＝海外だと捉えていました。ですが、この講座を視聴した後、文化は国などは関係なく個人個人によって異なっていて、異文化とはそのような違いのことを指す言葉なのだと気づきました。例えば、自分は朝食に必ずパンケーキを食べるけれど、親友のAさんは朝食に必ず焼肉を食べる。“自分”と“Aさん”には、住んでいる国は同じでも、このような様々な違いがあって、これも一つの異文化であることに気が付きました。また、異文化を全て理解しようとするのは、個人単位になってしまうので無理だとも思いました。個人個人の異文化全てを理解しようとするのではなく、まずは身近な人と私の間にある異文化を理解し、そこから相手の文化について疑問を持ったりして様々な価値観を自分の中に取り入れていくことが大事だと気づきました。

自分自身の考え：私は、“異文化”というのは“多様性”という言葉と意味が似ていると思っています。“異文化”には“文化”という言葉が入っているので、“多様性”よりも少し限定的な言葉だと思いますが、この二つの言葉は、個人個人の様々な違いを表しているという点では共通していると思います。この二つの言葉をほぼ同じ意味合いで捉えて自分自身の考えを書いていきます。

一人一人の文化や多様性を自然と受け入れることは大切です。ですが、一人一人の違いを認めるという言葉はあまり好きではありません。個人的には、“認める”という言葉には上から目線なニュアンスがあるように思えてしまいます。なので、異文化理解というジャンルにおいても、国や個人個人で違う文化を認めるという考え方ではなく、受け入れるという考え方が良いのではないかと思います。単なる言葉遊びみたいに感じる人もいるとは思いますが、そこは個人個人の考え方の違いです。“認める”も“受け入れる”も同じではないかという考え方の方への配慮をして文章を書くと、自分自身が窮屈になってしまう感覚が私にはあります。上記のように、異文化や多様性を受け入れていくことは大切だと思います。ですが、あまりにも沢山の文化や多様性に配慮をして発言したりしていると気疲れしてしまいます。講座で講師の方がお話しされていましたが、だからといってどんな発言は失礼でどんな発言ならセーフなのか、線引きがとても難しいので、そこは最終的に個人の判断になっていくと思います。異文化理解や多様性の尊重はとても大切ですが、それを言葉にするときに、上から目線の表現になってしまっただけでは意味がないし、だからと言って沢山の文化や多様性に配慮をすることも疲れてしまうと思います。異文化理解や多様性の尊重については、“こうやって配慮すべきだ”ではなく、一人一人、自分自身が窮屈にならない程度の配慮の程度を上手く見つけて生きていくしかないという結論に至りました。

また、自分が受け入れる側だけなわけではなく、自分自身も沢山の文化や自分らしさを尊重してもらっている立場であるということを忘れずにいたいです。